

経営分析指標一覧

指標	意味	分析基準		計算式	
		可	否		
売上高増加率	%	基準期比で売上高がどれくらい増減しているか、減少しているかを示す。人・物・金の投入状況と合わせて判定する。	比率100%以上	比率100%未満	当該期売上高 / 基準期売上高 × 100
経常利益増加率	%	基準期比で経常利益がどれだけ増加しているのか、減少しているのかを示す。売上高増加率、売上高総利益率より高いほうがよい。	比率100%以上	比率100%未満	当該期経常利益 / 基準期経常利益
使用総資本回転率	回	事業に投下された資本の投資効率を表す。この回転率が高いのは、資本の回転速度、つまり資本の利用度が高いことを意味する。	比率大	比率小 ×	売上高 / 総資本
総資本経常利益率	%	企業が経営活動にどれだけ経営資源を投入し、どれだけ利益を上げているのか、経営力(企業収益力)の優劣をあらわす。この比率が高いほど企業の収益力は高い。	比率大	比率小 ×	経常利益 / 総資本 × 100
経営資本対営業利益率	%	企業が経営活動にどれだけ経営資源を投下し、本業でどれだけ利益を上げているかの優劣を見る。企業の本業による儲けを意味する。	比率大	比率小 ×	営業利益 / 経営資本 × 100
売上高総利益率	%	売上高に対して原価を差し引いた儲けを示す指標。高いほどコストをかけずに売上を上げている。高いほど良い。	比率大	比率小 ×	売上総利益 / 売上高 × 100
売上高経常利益率	%	企業経営における営業活動の成績をあらわす。具体的には売上高に占める経常利益の割合を示す。高いほど掛け値なしで成績がよい。	比率大	比率小 ×	経常利益 / 売上高 × 100
固定資産回転率	回	固定資産の利用度を示すもので、高いほど設備資産が十分に活用されていることになるが、業種の特徴と設備投資状況などを考慮して判定する。	比率大	比率小 ×	売上高 / 固定資産
経営安全率	%	売上が現在の売上高から下降していったとき、何%まで赤字に転落しないかという余裕率をあらわす。	高いほどよい(10%以上)	マイナス ×	100 - 損益分岐点比率
自己資本比率	%	経営資源のトータルである総資本に占める自己調達分(返済義務のない資本)の割合を示すもの。この比率は高いほど望ましい。	比率大	比率小 ×	自己資本 / 総資本 × 100
売上高対支払利息率	%	支払利息の負担が、売上高に対してどの程度であるかを示す。この比率の大小は営業利益に影響がある(1%以内であることが望ましい)	比率小	比率大 ×	支払利息 / 売上高 × 100
固定比率	%	建物、設備などの固定資産が、どの程度自己資本でまかなわれているかを図る基準で、この判定は100%以内であることが理想とされる。	比率小	比率大 ×	固定資産 / 自己資本 × 100
固定長期適合率	%	長期資本の利用度を示すもので、高いほど設備資産が十分に活用されていることになるが、業種の特徴と設備投資状況などを考慮して判定する。	比率小	比率大 ×	固定資産 / (自己資産 + 長期借入金) × 100
流動比率	%	短期(一年以内)の負債と、これを返済するのに必要な財源を比較する比率で、この比率が大きいほど返済能力があり、安全が保たれていることを示す。	比率大	比率小 ×	流動資産 / 流動負債 × 100
一人当たりの付加価値額	千円	社員1人当たりが生み出した付加価値額。生産性の判定では、最も重要な指標の1つであり、多ければおおいほど好ましい。	金額大	金額小 ×	付加価値額 / 生産性高(売上高) × 100
一人当たりの売上高	千円	売上高は、経営の活動の基本であり、利益の源泉である。したがって、一人当たりの売上高を計算し、同業と比較することにより人の働き、営業効率を評価することになる。	金額大	金額小 ×	売上高 / 従業員数
労働分配率	%	付加価値に対する人件費の割合を示し、生産性効率利益にどれほど寄与しているかの参考になる。			人件費 / 付加価値額 × 100